

地域に密着した「環境」と「人材育成」への奉仕がモットーです

東京六本木ロータリークラブの特色

東京六本木ロータリークラブは、2004年11月22日に東京西ロータリークラブをスポンサークラブとして創立されました。国際ロータリー第2750地区に所属しています。

日本有数の商業地域六本木で、ロータリーの目的に基づく五大奉仕「クラブ奉仕」「職業奉仕」「社会奉仕」「国際奉仕」「青少年奉仕」を展開しています。東京六本木ロータリークラブのテーマは「地域への貢献」そして「環境」と「人材育成」。六本木を拠点とした様々な奉仕活動は、国際ロータリーから「ゾーンレベルのチェンジメーカー賞」「RI意義ある業績賞」や「会長賞」を受賞するなど高い評価を得ています。

メンバーについて

東京六本木ロータリークラブのモットーは、“エンジョイ・ロータリー”。さまざまな事業を行う会員は、それぞれ個性的。楽しみながら親睦を図ることで社会貢献につながるロータリーのイベントに、積極的に参加する、アクティブな人たちが集まっています。



●タイ・ミャンマー難民キャンプへの支援
タイ国のミャンマー難民キャンプに簡便な伝達手段として必要とされている拡声器を設置しました。

国際貢献



●海外留学生への支援

ロータリー財団国際親善奨学生にクラブ独自で奨学金を支援しました。また、日本で学ぶ海外留学生を支援する米山記念奨学生のサポートの他、インターナショナルスクールISAのサマープログラムにミクロネシア連邦から留学生を招待しています。



●インターナショナルスクールへの支援

日本に数年間滞在中のインターナショナルスクールの生徒たちをロータリアンが経営する日本企業に招き、視野を広げてもらいます。日本のビジネスの一端に触れることで日本への理解を深めるきっかけとなっています。



●「環境シンポジウム」の開催

2007年、当時の若林環境大臣をはじめ、多くのゲストを招いて「環境シンポジウム」を開催。写真は「水保全」をテーマにしたパネルディスカッション。

環境への貢献



●「心の花も咲かせよう」

地元の小学生が丹精込めて育てた花で、六本木通りに花壇づくりをする取り組みを開催。人と人のつながり、人や他の生物を尊ぶ心を育て、人々の心の中にも花を咲かせようというプロジェクトです。



さまざまな奉仕活動で 地域と社会に貢献

東京六本木ロータリークラブは、様々な奉仕活動のうち、地域への貢献を第一として地元の公立小中学校、高等学校、インターナショナルスクールなどと協力した若い世代の「人材育成」に力を注いでいます。また、海外留学生への支援など世界へ目を向けた奉仕活動をおこなっています。

ロータリアンの多彩な職業を活かした授業協力やインターンシップの受け入れなどの奉仕活動は恒例となり、ロータリアンも若い世代との交流を楽しんでいます。

地域や社会のニーズに対する適切な奉仕活動は、ロータリアンにとって永久のテーマです。



●六本木クリーンアップへの参加

六本木ヒルズ自治会が主催する「六本木クリーンアップ」にクラブの発足当時から参加。(毎月第3土曜日の朝9時～)

地域密着



●地域研究

六本木・麻布地域のクラブ関係者の協力により、地元の歴史・文化・地区の発展についての講義、インタビュー、文献調査、実地調査を行う特別授業。自分の住んでいる街の素晴らしさを改めて実感したという生徒たちの感想も多く寄せられます。



●東京都立六本木高等学校への奉仕活動
自己の能力や適性を十分に活かしきれなかった生徒たちに対して、ロータリークラブならではのキャリアを活かした様々な形で、職業奉仕活動を行っています。



●東京都立芝商業高等学校より インターンシップの受け入れ

働く楽しさを若い世代に経験してもらうため、ロータリアンの経営する多彩な企業へのインターンシップを積極的に実施しています。



●キャリア支援

ロータリアンが生徒たちに自らの経験に沿った仕事について具体的に話し、生徒からの質疑にも応じる特別授業。人生そのものについて相談を寄せる生徒もあり、ロータリアンとの絆も深くなっています。



●港区立六本木中学校の 「六本木ヒルズ」エコ・ツアー

巨大商業施設「六本木ヒルズ」のエネルギーの供給源を学ぶ社会見学を開催。電気や空調が供給されるシステム、エネルギー削減効果や震災時の電気の供給体制など、体験し見学することで環境へ認識を見直すきっかけをつくります。

終わりになき奉仕活動——明日の子どもたちのために

東日本大震災 復興支援

東日本大震災被災地への長期的支援

2011年3月11日、東北地方を襲った東日本大震災。この未曾有の災害により、東北地方の太平洋沿岸は甚大な被害を受け多くの犠牲者を出しました。また、この地震と津波によって引き起こされた福島第一原子力発電所の事故により放射性物質で汚染された地域では、避難を余儀なくされた地域住民が自宅に帰還できない状況にあります。

震災直後から、ロータリーではさまざまな支援の手を差し伸べています。復興への道のりが長期化するにいたがい、当初の緊急的な生活必需の「物資の支援」から精神的な癒しや住み良い環境を創成するための「心の支援」へと支援内容も変化しています。

東京六本木ロータリークラブでも、震災直後から被災地のニーズに合わせた支援を毎年行っています。今後も引き続き復興状況や被災地の要望に応じた具体的、長期的な支援活動を計画・実施していきます。

2011年

津波被災地の小中学校へ学習教材を!

津波で多くの教材を消失した小中学校。被災地であるRI第2520地区仙台南ロータリークラブの起案による「被災にあった小中学生を支援するプロジェクト」に共同参画し、何が今現地の小中学校に足りないかを見極めた支援を行いました。

2012年

全村避難している子どもたちに夢と希望を!

放射線被災によって全村避難を余儀なくされ、仮校舎で授業を続けている福島県飯館中学校の子どもたちに元気に夢を切り開いてもらうため、RI第2530地区郡山アーバンロータリークラブと共同で、運動部のユニフォームを寄贈しました。



●『沿岸被災地小中学校支援プロジェクト』

地震や津波によって被災した宮城県内の小中学校に「今必要な機材・教材」のニーズを聞き取り、11校にOV型プラズマ型電子黒板(上写真)、DVD、通学かばんなどの教材を寄贈しました。(下表参照)



寄贈品の教材
DVDセット



被災地訪問のとき、小学校の校庭では元気に遊ぶ子供たちの姿が見られました。

■ 宮城県内の小中学校へ設備・道具などの支援内容

学校名	支援内容
石巻市立大街道小学校	多目的ひな壇ワイド
石巻市立大谷地小学校	跳び箱、運搬車、マット、ダンボールカッター、ルーベ、自転車
石巻市立船越小学校	小学校社会DVD全18巻、理科DVD全20巻他
気仙沼市立気仙沼中学校	石膏型
気仙沼市立水梨小学校	加湿空気清浄機
亘理町立高屋小学校	塗装工事、ネットフェンス金網修理工事、軽量折り畳み椅子、リアカー、ワイド逆上がり補助版、コートブラシ
東松島市立赤井南小学校	鼓笛隊ユニフォーム
東松島市立大塩小学校	カーテン
南三陸町立志津川中学校	通学かばん
山元町立坂元小学校	インテリジェントプロジェクター、対流式ストーブ
山元町立山下小学校	OV型プラズマ型電子黒板、収納BOX、書画カメラ



●放射線被災地飯館中学校への「ユニフォームの寄贈」

全村避難で仮校舎で授業を続けている子どもたちに元気になってもらおうと、野球、サッカー、ソフトテニス、バスケットボール、バレーボール、卓球の6つのクラブと、震災後初めて参加する駅伝大会の選手のためのユニフォームを寄贈しました。



駅伝大会では寄贈されたユニフォームを着用して元気に走る子どもたちの姿が新聞にも取り上げられ、その姿は避難生活続ける人々に勇気を与えました。

2013年

有事の際に役立つ放送設備は地域全体への貢献

津波で全壊し高台へ移転した東松島市・のびる幼稚園に、プロジェクター、アンプ、スピーカーなどの放送設備一式を寄贈しました。この設備は有事の際、幼稚園内だけではなくとどまらず、地域住民への避難情報の発信という役割を担うため、周辺地域にも貢献する支援となりました。



●のびる幼稚園(東松島市)での「ありがとう 感謝の会」

震災時に全壊したのびる幼稚園の再建した園舎に「放送設備」を寄贈。園舎で開催された「ありがとう 感謝の会」では、園児たちの元気いっばいな歌声で「ありがとうの歌」とお遊戯でのおもてなしを受けました。

国際ロータリーのポリオ撲滅運動

ポリオ(脊髄性小児麻痺)は、時として命さえも奪う伝染病で、主に5歳以下の幼児が感染します。国際ロータリーは1985年にロータリーの最大プロジェクトとなる「ポリオ・プラス」を開設し、以来20年以上にわたり8億米ドル以上の寄付を集め、全世界で20億以上の子供たちにワクチンを接種してきました。現在、ポリオの常在国は3カ国のみとなっています。

またロータリーは、ポリオ撲滅に対する認識を高め、ロータリーのポリオとの闘いを分かち合うため、国際ロータリーの創立記念日である2月23日の週、ピラミッドなど世界の有名建造物に「END POLIO NOW」(今こそポリオ撲滅のとき)というメッセージを投影しています。東京六本木ロータリークラブはこの趣旨に賛同し、2012年2月20日、東京で初めて六本木ヒルズにメッセージを投影するイベントを開催しました。「ポリオのない世界まであと少し」世界からポリオが完全に撲滅されるまで、ロータリーの活動は続けられます。

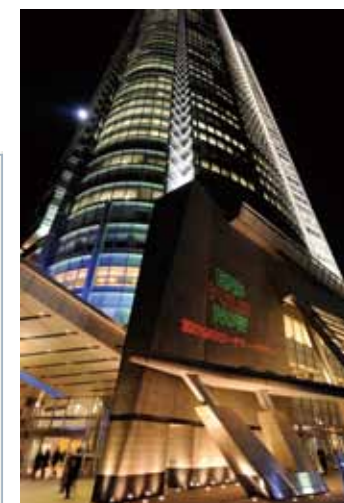


ポリオ撲滅

●「END POLIO NOW」メッセージ投影 点灯式



2012年2月20日午後6:00。カウントダウンに合わせて点灯ボタンが押され、六本木ヒルズと、隣接するハリウッドプラザに「END POLIO NOW」が投影されました。



点灯イベント会場の六本木ヒルズ周辺では、ポスター、横断幕、そしてアストロビジョンなどでイベントをPR。ロータリアンによるキャンペーン活動が展開され、ジャズバンドのミニコンサートなども開催されました。



ミクロネシアへの国際奉仕

東京六本木ロータリークラブとミクロネシア連邦とのつながりは2009年、当クラブ例会に招待したミクロネシア連邦共和国ジョン・フリッツ大使の「ロータリークラブが両国の架け橋になって欲しい」という卓話から始まりました。ミクロネシアは日本が統治していた時代(1920～1945)もあり、ポンペイ島ノリキール地区にあるミクロネシア短期大学では日本語の教育も行われています。

そこで、2011年、2012年にはミクロネシアの学生をインターナショナルスクール主催のサマースクールに招待する支援を行いました。さらに2013年より、不足している



日本語教育支援のため寄贈した教育資材(文房具、英語の字幕入り日本映画、浴衣セットなど)(上)/寄贈の品を手にする学生たち(下)/2013年

教材などを寄贈し、現地での日本語教育を支援する活動を開始。2013年のミクロネシアでの教育資材の贈呈式では、在ミクロネシア日本国大使やRI第2750地区ポンペイロータリークラブとの親交も深め、大使館のWebサイトでもロータリークラブからの支援として広報されました。

日本語作文コンテストの開催

さらにこれからは日本で働くことを希望する若者を育てることがミクロネシアの経済発展に寄与することを踏まえ、日本語への更なる関心の喚起のため2014年より学生に来日の機会を作ることを計画しました。そこで、東京六本木ロータリークラブ創立10周年を記念して「日本映画を観ての日本語作文コンテスト」を主催し、そ

の優勝者に日本旅行をプレゼントする」事業を計画。この事業を少なくとも5年間は継続して行うために「ミクロネシア計画基金」として500万円を用意しました。

2014年の作文の課題映画は、スタジオジブリ製作アニメーション「耳をすませば」。厳正な審査の結果、21歳の女性、Miss. Karmi Soar (カルミさん)が優勝し、ミクロネシア短期大学で行われた表彰式では、日本大使の坂井眞樹氏の出席のもと、当クラブの代表団から一週間の日本旅行がプレゼントされました。



山本会長より賞状と目録を受け取る優勝したカルミさん

また表彰式当日、ポンペイロータリークラブに公式訪問されていたRI第2750地区の坂本俊雄ガバナーに事業の報告をするとともに、大使公邸で開催された懇親会ではコンテストに参加した学生、坂本ガバナー一行、ポンペイロータリークラブのみなさんとの親交を深めました。懇親会の席上、坂井大使と坂本ガバナーは「このような“ヒトとヒトをつなぐ”事業を大切にして活動が続けていきましょう」と表明。今後もミクロネシアと日本との架け橋の一端を担うべく、活動が続けていきます。



ミクロネシア短期大学



教材贈呈式



大使公邸で開催された懇親会(前列左より坂本ガバナー、坂井日本大使ご夫妻、山本会長、Mr. Konrad EnglbergerポンペイIRC会長)

Rotary Day ロータリーデー

六本木クリーンアップ

「ロータリーデー」とは、地域社会の人びとに、楽しみながら情報を学んでもらうイベントに参加していただき、ロータリーを紹介するというシンプルなもの。世界34,000のロータリークラブがそれぞれの地域社会で「ロータリーデー」を実施すれば世界全体にロータリーについての理解を高める大きなインパクトとなります。

当クラブは、創立当初より六本木ヒルズ自治会に協力している「六本木クリーンアップ運動」が、地域密着の参加型奉仕プロジェクトを推奨するロータリーデー開催の趣旨に相応しいとして、2014年11月15日土曜日に「ロータリーデー」と位置づけた六本木クリーンアップを行いました。快晴の秋空の下約1時間半、六本木の街の清掃活動を行い、200名程の地元自治会や地元企業の皆さんと交流を図りました。この長年に亘る活動は六本木の街を綺麗にするだけでなく、犯罪が減少する成果を生みだしています。



東日本大震災復興支援

「避難経路整備の為の工具機材」の寄贈 ―東松島市宮戸地区―

東松島市宮戸地区(宮戸島)には明治以前より津波の避難場所として伝えられる標高106mの大高森の山があり、東日本大震災では全島民がそこへ避難することで津波の被害は大きかったものの一人も命を失うことなく難を逃れることが出来ました。



大高森の山への避難経路の階段



寄贈した工具一式

その“命の山”大高森山頂への避難経路の安全確保と環境維持には、日常的に草刈りや雑木の伐採などの整備が必要とされます。しかし、その整備に必要な機材の多くは3.11の津波で流されてしまいました。その窮状を踏まえて、2014年8月、避難経路の整備を担っている地元のボランティア団体にチェーンソーや草刈り機、地下水のくみ上げに利用できるエンジンポンプなど整備に必要な工具一式を寄贈しました。



創立 -2006 年度会長 小竹直隆

「知り合って、楽しく学ぶロータリー」

振り返ると、2004年11月に初めて出会った41名の皆さんと一緒に、心ときめかせながら創立総会を迎えた時のことが、いまでも鮮やかに蘇ってきます。この間10年を経て、歴代会長を始め皆さんのご尽力で、国際ロータリークラブから数々の表彰を受ける等、私たちのクラブが、人も羨む、立派なロータリークラブに成長してきたことを、皆さんと一緒に、心から慶びたいと思います。

初代会長としては、特別代表の佐藤晃一様と、初代幹事の小島篤様には大変お世話になったことを改めて篤く御礼申し上げます。有難うございました。



2006-07 年度会長 水島 裕 (故人)

「世界を見据えて進もう」

「ロータリーソングには歴史を感じる名曲が多いけれど、これからの若いロータリアンにはなじみにくいのではないかと思います、若く軽やかなイメージのロータリーソングを作りました。」今は故人になられた水島裕氏の言葉です。六本木RCのオリジナルソング「ロータリーの花」と「世界のどこかで」は、水島パスト会長が作詞・作曲し、クラブの例会で歌い継がれています。

また、会長年度の2007年4月に「健全な水循環の再生とヒートアイランド現象の緩和を目指して」をテーマとする設立後初の大イベント「環境シンポジウム」を開催されました。イベントは大成功裏に終了し、「環境に貢献する六本木RC」のクラブ目標が定まるきっかけとなりました。



2007-08 年度会長 荻田吉夫

「一步一步進もう」

クラブ発足以来3年、順調に目覚しい発展を遂げつつある時期に会長を仰せつかり、この良いペースを維持発展させて次につなぐことを最大の任務と心得ました。まだまだ新しいクラブなので、あまり先を急がず背のびをせず着実に実力をつけて将来の開花を期することが必要と考え、「一步一步進もう」にそのような思いを込めました。何より皆が例会に出ることが楽しみになるような会員同士の親密な雰囲気高めを目標しました。10周年を迎えた今、当時に比べクラブの基盤、経験、知識は比較にならないほどしっかりしたものになり、活動の幅も増えています。しかし、手探りで勉強しながら進んだ当時もそれなりに楽しかったなと懐かしく思います。



2008-09 年度会長 浅田豊久

「エンジョイ ロータリー」

東京西RCから転籍していた初代幹事の小島さんが約東通り西RCへ戻る、というタイミングで不肖私は西RCから移籍しました。佐藤特別代表が標榜された「日本一品格あるロータリークラブ」を、実現し保持するのだ、というのが移籍の目的でした。

例会場、お食事の品質、週報の精度と品格、会員の男女比率、外国人比率、職業分類、国際ロータリーへの貢献度、地区への貢献度、本会計とニコニコ会計の分離、など多岐に亘る重いテーマは会員の理解の下、初期の目的を肅々と実現して来られました。「お蔭さまで、」の気持ちを更なる品格向上につなげる、これが10周年の課題です。



2009-10 年度会長 山中祥弘

「エンジョイ・ロータリー・ライフ」

創立5周年を迎える年度でした。クラブ・テーマは浅田直前会長の「エンジョイ ロータリー」を継承し、さらに、ロータリーでのご縁が人生の大切なライフ・スタイルになればと思い「エンジョイ・ロータリー・ライフ」とさせていただきました。記念行事は六本木ロータリーらしさが形成されてきた時期でしたので、「ロータリーの未来」について裏千家第15代家元の千玄室様にお話をいただきました。また、「国際ロータリー意義ある業績賞」を当クラブにいただいたのも光栄でした。10周年を迎え「六本木ロータリー」らしさは輝きを増し、会員であることを誇りに思います。今後も奉仕活動を通して皆様とロータリー・ライフをエンジョイしたいものです。



2010-11 年度会長 篠塚 博

「未来を見据えて」

東京六本木ロータリークラブは、東京西ロータリークラブの50周年記念事業として2004年11月22日に会員41名で創立されました。創立当初より「地域密着型」のクラブとして環境・教育に注力し、ロータリークラブの原点である「奉仕」に努め、2代目幹事として、「環境シンポジウム」も開催させて頂きました。また、私の会長年度に起こった東日本大震災を忘れることは出来ません。復興はまだなのですが「未来を見据えて」日本の再興を願っております。最後に、10周年を迎えるにあたり、より一層東京六本木ロータリークラブの「ブランドの確立」を目指し会員各位と楽しいロータリー・ライフを送りたいと思います。



2011-12 年度会長 安井悦子

「心の花を咲かせよう。がんばろう日本!」

前年度に3.11の大震災が起き、ロータリーが本格的な東北復興支援を開始した年度でした。六本木RCも津波被害に遭われた小・中学校の要請に応じた「今、必要なもの」を寄贈しました。寄贈で訪れた被災地は被害の傷跡も生々しく、現在まで続く復興支援の継続を心に誓いました。

また、RIの「ポリオ撲滅2億ドルチャレンジ」の最終年度でしたので、ロータリー創立記念日に併せて六本木ビルズに「END POLIO NOW」のメッセージを投影するイベントを開催しました。この日は一般の方にも多数参加して頂き、冬の寒い一日でしたが心温まるイベントになりました。今は故人になられました片倉ガバナーとご一緒に点灯のボタンを押したことも懐かしい思い出です。



2012-13 年度会長 松島正之

「風に向かって、風とともに」

皆さんと手をつないで取り組んだイベントの一つ一つが懐かしく思い出されますが、特に印象深いのは次の二点です。第一は、国際奉仕の一環として、マイクロネシア短期大学に日本語教育資材の支援を始めたことです。贈呈式では、学生が日本語の歌を上手に歌ってくれました。また、同じ2750地区のボンペイロータリーと交流することもできました。

第二は、東日本大震災の被災者支援の取り組みを継続し、地元の郡山ロータリーとタイアップして、疎開を余儀なくされていた(現在もお仮校舎)飯館中学校の生徒に運動部のユニフォームを寄贈したことです。ユニフォームに着替え、運動に興じる生徒の顔は喜びに輝いていました。



2013-14 年度会長 平松和也

「生きること活かすこと」

9年目年度は「生きること活かすこと」をテーマに、ロータリアンであることを生き方の礎にしようという趣旨のRI会長の考えを受けて活動しました。

同時に、10周年という節目を目前にして、東京六本木RCが経てきた10年がこうであったという、当クラブのカタチを見いだしたいと考えた1年でした。「エレガントなクラブ」が、私が抱えているイメージです。奉仕活動を地道に続けていること、会員各自が職業奉仕を実践していること、会員相互が楽しく交歓できていること及びゲストビジターから訪ねる価値のある例会だと喜んで頂けていることを心がけました。

山本年度に、このバトンをお渡ししました。



2014-15 年度会長 山本良樹

「Thnak You, Rotary」

ロータリークラブに参加して奉仕と親睦の機会が増えたことに感謝の念に溢れております。「ロータリーに感謝」の意を込めて10年目のテーマは「Thank You, Rotary」です。これまでロータリーの精神を学んできましたが、奉仕の精神を日常的な活動にもっと広げることができるということに気付かされました。本年は広尾ロータリークラブが中心となって進めている「ケニア水支援プロジェクト」に参加いたしました。また、交換留学生の受け入れにも次年度より取り組みをお願いしたいと思います。そして前年度からの引継ぎとして東北への復興支援とマイクロネシア短大日本語学科への支援の継続が私たちの奉仕の中心として位置づけられた年となりました。



2014-15 年度会長エレクト 深田 宏

「楽しいロータリーを」

ロータリーのメンバーは、それぞれ相当多忙な日常を送っている。そのような者達が、週に一回集まる上に、いろいろのオブリゲーションを負っている。したがって、ロータリーは楽しい会であらなければならない、会員は仲良くロータリーの良さを共有すべきである。

例会での卓話や会員相互の交流を通じて有益な知識を増進させること、それぞれの能力に応じて社会奉仕の実をあげることなど、会員になって良かったと皆が思えるようなロータリーを会員相互の協力により実現する。それこそが我々ロータリアンの目指すべき道だと思います。

主な活動軌跡

2004	11 月	創立総会
2007		「環境シンポジウム」主催。地区より『ガバナー賞』を受賞
2008		会員増強・拡大及び各分野でバランスよく活動したことに対し、国際ロータリーより『2007-08 年度会長賞』を受賞
2009		地域中学・高等学校への「環境教育及びキャリア支援事業」に対し、地区より『ガバナー特別賞』を受賞
2010		創立五周年記念式典開催 2009-10 年度の社会奉仕活動に対し、国際ロータリーより『RI 意義ある業績賞』を受賞
2011		親睦と奉仕に対するロータリーの献身の実践に対し、国際ロータリーより『2010-11 年度会長賞』を受賞
2012		東日本大震災支援「沿岸被災地小中学校支援プロジェクト」に共同参加 2011-12 年度の五大奉仕部門における業績により、国際ロータリーより地区で1クラブ対象の『2011-12 年度チェンジメーカー賞・ゾーンレベル大規模クラブ部門』を受賞。併せて、国際ロータリーより「2011-12 年度チェンジメーカー賞」を受賞 会員増強とロータリー財団に関する卓越した実績に対し、国際ロータリーより『2011-12 年度会長賞』を受賞 地区内で会員維持率の最も高いクラブとして、国際ロータリーより『RI 会員増強・拡大賞』を受賞 ポリオ撲滅広報イベント「END POLIO NOW」の開催。地区より『地区特別広報賞』を受賞 「END POLIO NOW ロータリー 2 億ドルチャレンジ」への寄付に対し、ロータリー財団より感謝状を受領 1 ロータリー年度に、会員全員が 100 米ドル以上の寄付を達成。『100 パーセント「財団の友」会員クラブ』のバナーをロータリー財団より受領 1 ロータリー年度に、会員全員の寄付により一人当たりの平均寄付額が 100 米ドル以上を達成。『「毎年あなたも 100ドルを」クラブ』のバナーをロータリー財団より受領
2013		ミクロネシア連邦ボンペイ訪問『ミクロネシア短期大学への日本語教育資材支援』 東日本大震災復興支援活動『福島県飯館村立飯館中学校へのユニフォーム寄贈』 地区内で会員維持率の最も高いクラブとして、国際ロータリーより『RI 会員増強・拡大賞』を受賞 会員純増 3%以上または純増 5 名以上達成したクラブとして、地区より『会員増強功労賞』を受賞 7 月 1 日在籍者が 4 月 30 日まで在籍している退会者ゼロクラブとして、地区より『会員維持優秀賞』を受賞
2014		東日本大震災復興支援『東松島市の再建する幼稚園に放送設備を贈るプロジェクト』 地区より『2013-14 年度新しい風賞』受賞 ・2013-14 年度ロータリー財団「一人当たり寄付優秀クラブ」第 2 位 ・2013-14 年度ロータリー財団「地区重点目標達成クラブ」 ロータリークラブ・セントラルを通じて戦略目標を設定した熱意に対し、国際ロータリーより『2013-14 年度ロータリークラブ・セントラル賞』を受賞 東日本大震災復興支援「東松島市への避難経路整備の為の工具機材寄贈」 12 月
		創立 10 周年式典

クラブの活動拠点「グランドハイアット東京」

会員相互の親睦は活動の基本

東京六本木ロータリークラブの例会場は、六本木ヒルズ内にある「グランドハイアット東京」。毎週月曜日開催される例会は、美味しいお料理に加え、ジャンルを超えた各界の著名人、文化人を招いての卓話が好評のランチミーティング。中でも六本木ヒルズ内の美術館の最新情報についての卓話と、その後の鑑賞ツアーが楽しみのひとつとなっています。週に一度の短い時間ですが、勉強と会員同士の社交の場として有意義で貴重な時間を過ごしています。

さまざまなイベントが盛りだくさん

会員とその家族が毎年楽しみにしている年3回の夜間例会を始め、新会員を歓迎する『10 for 2』ではベテラン会員との会食で親睦を深めます。その他、ワイン同好会やゴルフ同好会など、さまざまな趣味の分野でも交流を深めています。

親睦

例会



●例会（毎週月曜日の12:30～13:30）
ジャンルを超えた著名人、文化人を招いての卓話



例会前の健康エクササイズ



美味しいお料理が自慢



年度末夜間例会



納涼夜間例会



クリスマス夜間例会



ワイン同好会

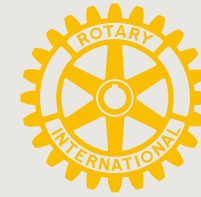


「10 for 2」



ゴルフ同好会

Rotary



ロータリーとは

職業も国も文化も異なる120万人が結びついたロータリーだからこそ、世界中の地域社会を少しずつ変えることが出来るのです。

生き生きとした街づくりに貢献したい、明日を担う子どもや若者たちを応援したい、みんなが平和に暮らせる世界をつくりたい……そんな思いを胸に、私たちは、それぞれの地域社会に基づいて活動しています。さまざまな職業、国、文化地域社会の人びとが協力するロータリーでは、想像を超えた素晴らしいことが実現できます。

ロータリークラブとは

世界各地のクラブは、それぞれ地元の地域社会に根ざして活動しています。クラブ会員（通称ロータリアン）は、交流やボランティア活動を通じて、視野を広げ、会員同士の友情や地域社会との絆を築いています。

東京六本木ロータリークラブのバナーの由来



当クラブのバナーは、六本木の丘にそびえるビルをモチーフにしています。また、奉仕の理想を追求するロータリークラブとして地域に深く根を張り、かつ世界へのアピールを目指すクラブをイメージしています。テーマカラーは暖色を基調にしたグラデーションにより、社会とクラブの発展を現しています。

ロータリーの目的

ロータリーの目的は、意義ある事業の基礎として奉仕の理念を奨励し、これを育むことにあります。具体的には、次の各項を奨励することにあります。

- 第1 知り合いを広めることによって奉仕の機会とすること。
- 第2 職業上の高い倫理基準を保ち、役立つ仕事はすべて価値あるものと認識し、社会に奉仕する機会としてロータリアン各自の職業を高潔なものとする。
- 第3 ロータリアン一人一人が、個人として、また事業および社会生活において、日々、奉仕の理念を実践すること。
- 第4 奉仕の理念で結ばれた職業人が、世界的ネットワークを通じて、国際理解、親善、平和を推進すること。

【四つのテスト 言行はこれに照らしてから】

THE FOUR-WAY TEST Of the things we think, say or do.

「四つのテスト」はロータリアンが倫理的行動を測る上での重要な物差しとして用いられてきました。多くの言語に翻訳され、世界中でロータリアンにより奨励されています。

1. 真実かどうか

Is it the TRUTH?

2. みんなに公平か

Is it FAIR to all concerned?

3. 好意と友情を深めるか

Will it build GOODWILL and BETTER FRIENDSHIPS?

4. みんなのためになるかどうか

Will it be BENEFICIAL to all concerned?

クラブ概要

名称	東京六本木ロータリークラブ
所属地区	国際ロータリー第2750地区
スポンサークラブ	東京西ロータリークラブ
特別代表	佐藤晃一
創立	2004年11月22日
RI加盟認証日	2004年12月8日
認証伝達式	2005年1月24日
例会会場	グランドハイアット東京
例会日時	毎週月曜日 12:30 - 13:30
会員数	チャーターメンバー:42名 2014年12月1日現在:51名 (男性38名、女性13名)

事務局

〒106-0031 東京都港区西麻布3-2-13
コートアネックス六本木503号室
TEL:03-6721-1555 FAX:03-6721-1556
E-mail:rotaryclub6@wine.ocn.ne.jp

<http://www.tokyoroppongi-rc.jp/>

◆ぜひ、ホームページをご覧ください◆



国際ロータリー第 2750 地区

東京六本木ロータリークラブ

Rotary Club of Tokyo Roppongi



この印刷物に使用している用紙は、森を元気にするための間伐と間伐材の有効活用に使われます。



国際ロータリー第 2750 地区

東京六本木ロータリークラブ **10th**



Rotary Club of Tokyo Roppongi